卒業論文　　2015年度 (平成27年)

Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの  
設計と実装

慶應義塾大学 環境情報学部  
氏名：髙橋 俊成

卒業論文要旨 - 2015年度 (平成27年度)

Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの  
設計と実装

本研究では、Meetupにおけるプレゼンテーションを記録するために、専用のプレゼンテーション記録システムを設計、構築した。

Meetupとは、共通の趣味やテーマで緩やかに繋がるWEBコミュニティのメンバーが、知見共有や人間交流を目的として行うカジュアルな勉強会・交流会である。Meetupにおけるプレゼンテーションでは、コミュニティにとって有意義な情報交換が行われている一方で、その記録作業は参加者個々人の自発的・自主的な活動に頼りきっており、保存先や形式がバラバラでまとまった記録が存在しない現状がある。

本研究では、Meetupにおけるプレゼンテーションを記録するための要件を整理し、それを満たす専用のプレゼンテーション記録システムを設計し、WebRTCやElectronを用いて実装した。また、その評価のために実証実験を実施した。

キーワード：

1. アーカイブ,　2. プレゼンテーション,　3. Meetup,　4. WebRTC,　5. Electron

Abstract of Bachelor’s Thesis

目次

[第1章 はじめに 1](#_Toc438459411)

[1.1. 背景 1](#_Toc438459412)

[1.2. 本研究の課題 1](#_Toc438459413)

[1.3. 本研究の目的 1](#_Toc438459414)

[1.4. 用語定義 2](#_Toc438459415)

[1.5. 本論文の構成 3](#_Toc438459416)

[第2章 Meetupにおけるプレゼンテーションの分析 4](#_Toc438459417)

[2.1. Meetupにおけるプレゼンテーションの特徴 4](#_Toc438459418)

[2.2. Meetupにおけるプレゼンテーションの構成要素 5](#_Toc438459419)

[第3章 既存のスライドフォーマットとその問題点 7](#_Toc438459420)

[3.1. 既存のスライドフォーマットと記録可能なデータ 7](#_Toc438459421)

[3.2. 既存のスライドフォーマットの問題点 7](#_Toc438459422)

[3.1.1　OOXML 7](#_Toc438459423)

[3.1.2　MPEG4 8](#_Toc438459424)

[3.1.3　HTML 8](#_Toc438459425)

[第4章 Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの設計 9](#_Toc438459426)

[4.1. Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの機能要件 9](#_Toc438459428)

[4.2. Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの設計 9](#_Toc438459429)

[4.2.1　記録するプレゼンテーション構成要素 9](#_Toc438459430)

[4.2.2　遠隔の参加者の行動をスライドタイムラインで記録するための設計 10](#_Toc438459431)

[4.2.3　発表者用アプリケーションの動作 10](#_Toc438459432)

[4.2.4　聴衆用アプリケーションの動作 11](#_Toc438459433)

[4.2.5　サーバーアプリケーションの動作 11](#_Toc438459434)

[第5章 Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装 12](#_Toc438459435)

[5.1. 実装環境 12](#_Toc438459437)

[5.2. 実装の前提となる技術 12](#_Toc438459438)

[5.2.1　WebRTC 13](#_Toc438459439)

[5.2.2　Electron (Atom Shell) 13](#_Toc438459440)

[5.3. Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装の概要 13](#_Toc438459441)

[第6章 実証実験 15](#_Toc438459442)

[6.1. 輪講会における実証実験 15](#_Toc438459444)

[6.2. デベロッパーMeetupにおける実証実験 15](#_Toc438459445)

[第7章 評価 16](#_Toc438459446)

[7.1. 評価概要 16](#_Toc438459448)

[7.2. 計測 16](#_Toc438459449)

[7.2.1　映像配信時の参加者のスケーラビリティ 16](#_Toc438459450)

[7.2.2　対応するスライド共有サイトの数 16](#_Toc438459451)

[7.3. 考察 16](#_Toc438459452)

[第8章 結論 17](#_Toc438459453)

[8.1. まとめ 17](#_Toc438459455)

[8.2. 今後の課題 17](#_Toc438459456)

[謝辞 18](#_Toc438459457)

[参考文献 19](#_Toc438459458)

図目次

[図 1　Meetupプレゼンテーション記録フォーマットの概念図 2](#_Toc438459459)

[図 2　一般的なプレゼンテーションとMeetupにおけるプレゼンテーションの構造比較 5](#_Toc438459460)

[図 3　Meetupプレゼンテーション記録フォーマットの概念図（再掲） 6](#_Toc438459461)

[図 4　Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装概要 14](#_Toc438459462)

表目次

[表 1　スライドフォーマットと記録可能コンテンツ 7](#_Toc438459463)

[表 2　プレゼンテーションの記録対象とデータ形式 9](#_Toc438459464)

[表 3　本研究のプレゼンテーション記録システムの実装環境 12](#_Toc438459465)

# はじめに

## 背景

WEBコミュニティは1990年代から始まった情報通信技術の発達のなかで登場し、今日まで発展してきた。古くはメーリングリストやIRCで、現在ではSNSで、活発な非対面・テキスト主体のコミュニケーションが行われてきた。これらは同じ趣味やテーマによって緩やかに繋がる同質性の高いコミュニティである。

WEBコミュニティのメンバーは時々、より密なコミュニケーションを求めてMeetupと呼ばれるオフラインイベントを開催することがある。Meetupは、知見共有・人間交流を目的とした対面・リアルタイムのカジュアルな勉強会・交流会である。Meetupの形態はコミュニティごとに様々だが、とくにエンジニア界隈のMeetupでは設定されたテーマに沿って参加者のうち少人数が発表者としてプレゼンテーションを行うセミナースタイルが主流である。聴衆側の参加者は、発表後の質疑応答のほか、発表中に同時進行的にマイクロブログサービスへ感想や意見を投稿するなどして発表者および他の聴衆とコミュニケーションをとる。

Meetupにおけるプレゼンテーションの特徴のひとつに、インターネット越しに視聴する遠隔の参加者の存在がある。主催者が会場の様子をストリーミング配信したり、発表者が事前に発表資料をスライド共有サービスに投稿したり、現地の参加者が進行や感想をマイクロブログにリアルタイムに投稿したりで、遠隔での参加が成り立っている。

## 本研究の課題

本研究が着目する問題点は、Meetupにおけるプレゼンテーションを、多数の現地ならびに遠隔の参加者からのフィードバックと合わせて記録することの難しさである。

発表中にどのスライドに対してマイクロブログ経由でコメントがなされたかを記録したり、Meetup会場内で行われる質疑応答とマイクロブログ経由のコメントを同時に記録したりするのは、速記やカメラ撮影など既存の記録手法では難しい。ごく少人数で運営されるMeetupでは尚更である。

## 本研究の目的

本研究では、Meetupにおけるプレゼンテーションの記録を目的とする。そのためのアプローチとして、専用のプレゼンテーション記録システムを構築する。このプレゼンテーション記録システムは、発表者のスライドデータにMeetup会場内外の出来事をテキストや画像、映像などのデータで収めてスライドタイムラインで紐付けた「Meetupプレゼンテーション記録フォーマット」で、Meetupにおけるプレゼンテーションを記録する。

**Meetupプレゼンテーション  
記録フォーマット**

**既存スライドフォーマット**

スライドデータ

(テキスト・映像・音声)

カメラ・マイク  
(発表映像・音声)

スライド  
タイムライン

アンケート  
結果

参加者  
属性

SNS投稿

図 　Meetupプレゼンテーション記録フォーマットの概念図

## 用語定義

本節では、本論文中で用いられる主な用語を定義する。

* Meetup（ミートアップ）  
  　主にWEB上で活動するコミュニティのメンバーが、知見・意見共有と人間交流を目的として行うカジュアルな勉強会や交流会。参加者のうち数人が発表者となりプレゼンテーションを行う。発表内容は、後日発表者によって任意にオンライン公開され、WEBコミュニティに共有されることがある。
* WEBコミュニティ  
  　主にWEB上で活動する非組織的なコミュニティ。共通の趣味・テーマなどの情報共有・意見交換・人間交流を主な目的に、緩やかに繋がっている。特定の場所や組織に実際に行かなくともネットワークを経由して知的資産を得られる場として機能する。
* プレゼンテーション  
  　発表者がスライド資料を用いて聴衆に対して情報を掲示する行為と、それに付随する参加者同士の議論や意見交換。
* スライドタイムライン  
  　プレゼンテーションの進行を、経過時間に加えてスライド資料のページ番号に基づいて表したもの。

## 本論文の構成

2章ではMeetupにおけるプレゼンテーションを分析し、問題解決のためのアプローチを提案する。3章では既存のスライドフォーマットとその問題点について分析する。4章では前章までの分析に基づいてMeetupにおけるプレゼンテーション記録システムを設計し、5章で実装について述べる。6章では本システムを用いた実証実験について述べ、7章でその評価を行う。8章では結論と今後の課題について述べる。

# Meetupにおけるプレゼンテーションの分析

本章では、Meetupにおけるプレゼンテーションを分析し、問題解決のアプローチを述べる。



## Meetupにおけるプレゼンテーションの特徴

WEBコミュニティによって、開催されるMeetupの形態は若干異なる。Meetupを積極的に行う人気のコミュニティには、以下が挙げられる [1]。

* 外国語学習
* ブッククラブ
* 国際交流
* ビジネス、起業家
* ヨガ
* テクノロジー、プログラマー
* 写真撮影
* ママ
* 共通の病
* ランニング

本研究では、プログラマーコミュニティに属するMeetupで行われるプレゼンテーションをMeetupにおけるプレゼンテーションとして定義する。

Meetupにおけるプレゼンテーションでは、司会と発表者、聴衆の3種類の参加者が同じ時間を共有しているものとする。司会はMeetup全体の進行管理を行う者とし、発表者は与えられた時間内でテーマに沿ってプレゼンテーションを行う者、聴衆は発表者のプレゼンテーションを視聴する者とする。司会は発表者または聴衆を兼ねることがあり、また発表者は自身のプレゼンテーション時以外では聴衆として振る舞う。

Meetupにおけるプレゼンテーションは、スライド資料を用いて行われる比較的短時間の発表並びに質疑応答である。Meetupごとにテーマが定められ、参加者のうち数人が発表者としてそれに則ったプレゼンテーションを順に行う。この時、聴衆は発表後の質疑応答のほか、発表中に同時進行的にマイクロブログサービスへ感想や意見を投稿するなどして発表者および他の聴衆とコミュニケーションをとる。

|  |  |
| --- | --- |
| 一般的なプレゼンテーション  C:\Users\Seibe\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\Content.Word\Figure0.png | Meetupにおけるプレゼンテーション  C:\Users\Seibe\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\Content.Word\Figure1.png |

図 　一般的なプレゼンテーションとMeetupにおけるプレゼンテーションの構造比較

図 2に示すように、Meetupにおけるプレゼンテーションの特徴はインターネット越しに視聴する遠隔の参加者の存在である。一般的なプレゼンテーションはすべての参加者が同一の物理的な空間内に存在するのに対して、Meetupにおけるプレゼンテーションでは参加者の一部がインターネット越しに遠隔で視聴する。主催者が会場の様子をストリーミング配信したり、発表者が事前に発表資料をスライド共有サービスに投稿したり、現地の参加者が進行や感想をマイクロブログにリアルタイムに投稿したりすることで、このような遠隔での参加を実現している。

## Meetupにおけるプレゼンテーションの構成要素

図 3は、Meetupにおけるプレゼンテーションの構成要素を表したものである。Meetupにおけるプレゼンテーションでは、まず参加者がいて、次に発表者のスライド資料やそのコントロール情報（スライドタイムライン）があり、そして放送者や参加者の表情や身振りなどの視覚情報、発話や拍手などの音声情報がある。これらの基本的な構成要素に加えて、主に遠隔の参加者によるSNS投稿など会場の外の情報も構成要素として挙げられる。

**Meetupプレゼンテーション  
記録フォーマット**

**既存スライドフォーマット**

スライドデータ

(テキスト・映像・音声)

カメラ・マイク  
(発表映像・音声)

スライド  
タイムライン

アンケート  
結果

参加者  
属性

SNS投稿

図 　Meetupプレゼンテーション記録フォーマットの概念図（再掲）

# 既存のスライドフォーマットとその問題点

本章では、スライド資料における既存フォーマットを分析し、それぞれの問題点を整理する。



## 既存のスライドフォーマットと記録可能なデータ

スライド資料に用いられるフォーマットと表現可能なデータの組み合わせの可否を表 1に示す。

表 　スライドフォーマットと記録可能コンテンツ

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | OOXML | MP4 | HTML |
| テキスト | 〇 | × | 〇 |
| 静止画 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 映像/音声 | 〇 | 〇 | × |

## 既存のスライドフォーマットの問題点

本節では、既存のスライドフォーマットの問題点についてそれぞれ述べる。

### 3.1.1　OOXML

OOXML (Open Office XML, ISO/IEC 29500:2012)は、Microsoft PowerPointなどのスライドツールで用いられるXMLベースのファイルフォーマット。

テキストや画像、映像などのマルチメディア資料に対応し、表現力も普及度も随一のスライドフォーマットである。しかし、高機能ゆえに非常に複雑で、OOXMLフォーマットを扱えるアプリケーションは少ない。

### 3.1.2　MPEG4

MPEG4はWEBで共有される動画データの中で最も一般的なファイルフォーマットのひとつである。

MPEG4はどんな要素でもビットマップ化・映像化すれば記録できるので、見た目の表現力はOOXML以上といえる。しかし、元がテキストデータの場合は映像化の際にその意味を失うことになるため、同じテキストデータを用意しても内容を検索することはできない。

### 3.1.3　HTML

WEBで最も普及している文書フォーマットのひとつ。構造化されたテキストデータなので内容の検索性が高い。videoタグを用いればマルチメディアも参照できるが、あくまで参照であり単体での表現力には欠ける。

# Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの設計

本章では、これまでの分析を踏まえた上で、Meetupにおけるプレゼンテーションの記録を実現するために必要なシステムを設計する。



## Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの機能要件

本節では、Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムに必要な機能要件を整理する。

* 2.2節で述べたMeetupにおけるプレゼンテーションの構成要素を記録できる
  + 構成要素のセマンティック（意味解釈可能）さを保ったまま記録できる
  + Meetup会場にいない遠隔参加者の活動を記録できる
* スライドタイムラインに基づいてプレゼンテーションの構成要素を記録できる
* 作成した記録をWEBで容易に共有できる

## Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの設計

本節では、前節で整理した機能要件を満たす設計について述べる。

### 4.2.1　記録するプレゼンテーション構成要素

本システムで記録対象とするプレゼンテーション構成要素を以下に挙げる。

表 　プレゼンテーションの記録対象とデータ形式

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 記録対象 | データ形式 | 付随するメタ情報 |
| スライド資料 | テキスト(URL) | 発表者 |
| 参加者属性(連絡先情報) | テキスト |  |
| スライドコントロール (ページめくり、発表時間) | テキスト |  |
| カメラ映像 | ビデオ | 動画コーデック、撮影対象、撮影者 |
| マイク音声 | サウンド | 音声コーデック、録音対象、録音者 |
| SNS投稿 | テキスト(URL) | 投稿者、投稿内容、投稿時刻、ページ番号 |
| アンケート | テキスト | 質問内容、質問時刻、選択肢ごとの回答者数 |

スライド資料は、スライド共有サイトの利用が一般化していることを鑑みて、データそのものを持たずに外部URLへの参照という形で記録する。

### 4.2.2　遠隔の参加者の行動をスライドタイムラインで記録するための設計

発表者と会場にいない遠隔の参加者との間で伝送遅延が大きい場合、遠隔の参加者の行動をスライドタイムラインで記録することが難しくなる。例えば遠隔の参加者がスライドの4ページ目にコメントをしたつもりで、その情報が中央サーバーあるいは発表者の端末に届く前に発表者がスライドを5ページ目にめくった場合、システムは遠隔の参加者が5ページコメントしたものと誤って判断してしまう。これを防ぐには、発表者がスライドのどのページを現在表示しているかをすべての参加者にブロードキャストする必要がある。

この時、スライドのページ番号だけでなくプレゼンテーションのすべての構成要素を参加者にブロードキャストすることで、システムは肥大化するものの別途プレゼンテーションの配信システムを用意する必要が無くなり、遠隔の視聴者の視聴環境が改善される。

よって、本システムはプレゼンテーションの記録のために、その配信も行えるよう設計する。

### 4.2.3　発表者用アプリケーションの動作

本項では、本研究で実装するプレゼンテーション記録システムの発表者用アプリケーションの動作概要を述べる。発表者用アプリケーションは、Meetupにおけるプレゼンテーションの構成要素のうち発表者が発信する情報を処理し記録用Webサーバーに送信する機能と、Webサーバーから受信した参加者のSNS投稿を表示する機能を持つPC用アプリケーションである。

発表者があらかじめスライド共有サイトに投稿しておいたスライド資料のURLを本アプリケーションに入力することで、即座にプレゼンテーションの配信と記録が可能になる。プレゼンテーションを開始するとそのプレゼンテーション固有のURLが生成される。ほかの視聴者がこのURLをWebブラウザーで開けば、後述する聴衆用Webアプリケーションですぐにプレゼンテーションへの参加が可能となる。

発表用アプリケーションの画面にはスライド資料と自身のビデオ映像、そして参加者のSNS投稿が表示され。マウスやキーボードでスライドコントロールが可能である。

### 4.2.4　聴衆用アプリケーションの動作

本項では、本研究で実装するプレゼンテーション記録システムの聴衆用アプリケーションの動作概要を述べる。聴衆用アプリケーションは、Meetupにおけるプレゼンテーションの構成要素のうち参加者のSNS投稿を処理し記録用Webサーバーに送信する機能と、発表者の発信情報と他の参加者のSNS投稿をWebサーバーから受け取り表示する機能を持つWebアプリケーションである。

発表者から伝えられたプレゼンテーションURLをWebブラウザーで開くと、この聴衆側アプリケーションで即座にプレゼンテーションに参加できる。聴衆用アプリケーションの画面にはスライド資料と発表者のビデオ映像、そして参加者のSNS投稿が表示され、マウスやキーボード、タッチインターフェースでSNS投稿やアンケートへの回答が可能である。

### 4.2.5　サーバーアプリケーションの動作

本項では、本研究で実装するプレゼンテーション記録システムのサーバーアプリケーションの動作概要を述べる。サーバーアプリケーションは、Meetupにおける全てのプレゼンテーション構成要素を発表者用・聴衆用アプリケーションから受け取り、サーバー内に記録したうえで参加者全員に同じ情報をブロードキャストして伝える。

# Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装

本章では、前章で設計したプレゼンテーション記録システムのうち、以下の実装について述べる。

* 聴衆用 WEBアプリケーション
* 発表者用 ネイティブアプリケーション
* WEBサーバー
* メディアサーバー



## 実装環境

本研究で実装したMeetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装環境を表 3に示す。

表 　本研究のプレゼンテーション記録システムの実装環境

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 詳細 |
| WEBサーバーOS | Ubuntu 14.04.3 LTS |
| WEBサーバー | Apache 2.4.7 |
| WEBサーバーアプリケーション使用言語 | Haxe (Node.js) |
| メディアサーバーOS | Ubuntu 14.04.3 LTS |
| メディアサーバー | Kurento Media Server 6.2.0 |
| ネイティブクライアントエンジン | Electron 0.36.0 |
| ネイティブクライアント使用言語 | Haxe (JavaScript), HTML, CSS |
| WEBクライアント使用言語 | Haxe (JavaScript), HTML, CSS |

## 実装の前提となる技術

### 5.2.1　WebRTC

本節では、本研究で実装した映像配信プロトコルとして使用するWebRTCのアーキテクチャについて述べる。WebRTCは、W3Cが提唱するWebブラウザー用のリアルタイムコミュニケーションAPIで、特別なプラグインなしでピアツーピアの映像伝送を可能とする。

### 5.2.2　Electron (Atom Shell)

本節では、本研究で実装した発表者用のネイティブクライアントのアプリケーションエンジンとして使用するElectronのアーキテクチャについて述べる。Electronは、GitHub社が開発するデスクトップアプリのためのクロスプラットフォーム実行環境で、内蔵するChromiumブラウザーによってNode.js/HTMLアプリケーションをクロスプラットフォームに動作させることを可能とする。

## Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装の概要

本節では、本研究で実装したプレゼンテーション記録システムの実装概要を述べる。実装の概要を図 4に示す。本システムの実装は、発表者が使用するネイティブアプリケーションと、聴衆が使用するWebアプリケーション、ならびにそれらから発信される情報を受け取り記録・他の参加者に仲介するWebサーバー・Kurentoメディアサーバーに大別される。



図 　Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムの実装概要

# 実証実験

実際のプレゼンテーションにおいて本システムを用いた2つの実証実験について述べる。



## 輪講会における実証実験

本節では、村井純研究室Archグループの有志で行っている「モダンオペレーティングシステム輪講会」において、本システムを用いたプレゼンテーション記録の実証実験を行った。

## デベロッパーMeetupにおける実証実験

本節では、都内某所にて行われたエンジニア向けMeetupイベントに登壇し、本システムを用いたプレゼンテーション記録の実証実験を行った。

# 評価

本章では、本研究で設計・実装したプレゼンテーション記録システムの評価を行う。



## 評価概要

* 映像配信時の参加者のスケーラビリティ  
  　WebRTCを用いて映像記録・配信を行った際に安定して動作する同時参加者数の上限値。
* 対応するスライド共有サイトの数  
  　プレゼンテーションを行う際に、スライド資料参照先として利用可能なスライド共有サイトの数。

## 計測

### 7.2.1　映像配信時の参加者のスケーラビリティ

15秒間に一人ずつ参加者が増える環境を構築し、新規参加者が映像を受信できなくなったときの同時参加者数を計測した。これを20回繰り返し、その平均値を結果とした。計測の結果を図に示す。

### 7.2.2　対応するスライド共有サイトの数

著名なスライド共有サイトならびに個人サーバー上に置いた異なるスライドデータのURLを発表者用アプリケーションに入力し、実際に配信が可能だったか否かを記録した。計測の結果を表に示す。

## 考察

# 結論

本章では、結論として本研究の成果を明らかにするとともに、今後の課題について述べる。



## まとめ

本研究では、Meetupにおけるプレゼンテーションの記録を目的とした。その問題解決のために、Meetupにおけるプレゼンテーション記録システムを設計・実装した。

Meetupにおけるプレゼンテーションは、オンライン・オフラインの参加者が入り乱れる複雑な環境である。こうした状況を踏まえ、本研究ではプレゼンテーションの構成要素を配信しながら記録するWEBシステムを実装して実証実験を行った。実証実験では、研究室で行われた輪講会と、外部のエンジニアMeetupにおいて記録の実証実験を行った。

実証実験の結果より、本研究で構築したプレゼンテーション記録システムでMeetupにおけるプレゼンテーションが正確に記録されることを確認し、本研究のアプローチが有効であることが確認された。

## 今後の課題

実証実験の結果から、本研究のアプローチはMeetupにおけるプレゼンテーションの記録に有効であることが明らかになった。しかし実証実験で構築した環境には幾つかの問題が見受けられた。以下に今後の課題を述べる。

* スライド資料が外部参照であるため、オフライン時に記録を再生することができない

# 謝辞

# 参考文献

|  |  |
| --- | --- |
| [1] | “Meetupとは,” 19 12 2015. [オンライン]. Available: http://help.meetup.com/customer/ja/portal/articles/637187-meetup%E3%81%A8%E3%81%AF. |
| [2] | 高木義和, “情報文化　VIII. インターネットコミュニティの特性,” 28 5 2015. [オンライン]. Available: http://www.nuis.ac.jp/~takagi/JB/2015/ic08.pdf. [アクセス日: 20 12 2015]. |
| [3] | T. NGO, “OFFICE OPEN XML OVERVIEW,” 23 10 2006. [オンライン]. Available: http://www.ecma-international.org/news/TC45\_current\_work/OpenXML%20White%20Paper.pdf. [アクセス日: 21 12 2015]. |
| [4] | 総務省, “デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン,” 26 3 2012. [オンライン]. Available: http://www.soumu.go.jp/main\_content/000153595.pdf. [アクセス日: 20 12 2015]. |
| [5] | 市川裕康, “『ソーシャル&リアルがポイント。今求められる新しい出会い、学び、コミュニティの形～「ミートアップ」とは』　 | ソーシャルビジネス最前線 | 現代ビジネス [講談社],” 2 5 2011. [オンライン]. Available: http://gendai.ismedia.jp/articles/-/3422. [アクセス日: 21 12 2015]. |
| [6] | 一. 三井, 誠. 内田 , 晋. 白山, “SNSにおける情報伝播に対するコミュニティの影響,” 横断型基幹科学技術研究団体連合, 2005. |